

平成25年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成24年7月31日

上場取引所 大

上場会社名 石垣食品株式会社

コード番号 2901 URL <http://www.ishigakifoods.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 石垣 裕義

問合せ先責任者 (役職名) 経理部経理課 課長

(氏名) 小西 一幸

TEL 03-3263-4444

四半期報告書提出予定日 平成24年8月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第1四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第1四半期	199	25.9	15	163.8	13	132.6	12	114.4
24年3月期第1四半期	158	9.1	5	—	5	—	5	45.4

(注) 包括利益 25年3月期第1四半期 14百万円 (115.8%) 24年3月期第1四半期 6百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第1四半期	3.61	—
24年3月期第1四半期	1.69	—

(参考) 持分法投資損益 平成25年3月期第1四半期 — 百万円 平成24年3月期第1四半期 — 百万円

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
25年3月期第1四半期	490	374	76.3	110.46
24年3月期	440	359	81.6	106.09

(参考) 自己資本 25年3月期第1四半期 374百万円 24年3月期 359百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
25年3月期	—	—	—	—	—
25年3月期(予想)	—	0.00	—	1.00	1.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	356	8.7	15	54.2	15	54.8	15	55.7	4.63
通期	628	9.3	12	154.4	13	82.0	12	128.0	3.76

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 ― 社 (社名) 、 除外 ― 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
(注)詳細は、2ページ【2. サマリー情報(その他)に関する事項】(2)四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
② ①以外の会計方針の変更 : 無
③ 会計上の見積りの変更 : 無
④ 修正再表示 : 無
(注)詳細は、2ページ【2. サマリー情報(その他)に関する事項】(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)				
① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	25年3月期1Q	3,390,000 株	24年3月期	3,390,000 株
② 期末自己株式数	25年3月期1Q	1,779 株	24年3月期	1,779 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	25年3月期1Q	3,388,221 株	24年3月期1Q	3,388,221 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示
この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続を実施中です。
なお、この四半期決算短信は、同レビュー手続の対象外であります。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項
上記の予想は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確定な要素を含んでおります。
実際の業績は今後様々な要因によって当社の見込みと異なるかもしれないことをご承知おきください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	2
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	2
2. サマリー情報（その他）に関する事項	2
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	2
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	2
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	2
3. 四半期連結財務諸表	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
(3) 継続企業の前提に関する注記	7
(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	7
4. 補足情報	7
事業等のリスク	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、飲料事業、珍味事業とも大幅な増収増益を記録し、売上高199百万円(前年同四半期比25.9%増)、営業利益15百万円(前年同四半期比163.8%増)、経常利益13百万円(前年同四半期比132.6%増)、四半期純利益12百万円(前年同四半期比114.4%増)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

①飲料事業

主力の麦茶が、近年の価格競争激化が続いたことに加え、春の天候不順が春夏商戦の立ち上がりを鈍くしたことから減収となったものの、ごぼう茶がマスコミ報道等の影響を受けて、原料調達に間に合わず出荷調整を行う程の大幅な伸長となり、麦茶の減収を補って余りある増収となったことから、飲料事業全体では売上高109百万円(前年同四半期比32.4%増)となりました。

また損益面でも、麦茶の販売促進費は増加したものの、ごぼう茶は新製品で引き合いが強いため販売促進費の負担が軽く、また、固定費負担や工場稼働率の面においても、麦茶の不調をごぼう茶の好調が補う形となったことから、営業利益21百万円(前年同四半期比97.7%増)と大幅な増益になりました。

②珍味事業

ビーフジャーキーについて、自社ブランド品の販売が堅調なことに加え、OEMが、小容量の駄菓子向けOEMが引き続き好調で供給量を大きく伸ばしていることや、新規供給先の珍味メーカーを開拓したことから、売上高88百万円(前年同四半期比31.1%増)となりました。

損益面では、中国生産子会社における人件費や原料価格が高騰する等のマイナス要因があったものの、売上好調に伴う稼働率増加がプラス要因となったほか、純輸入事業であるため円高も仕入価格の抑制に働いたことから、営業利益15百万円(前年同四半期比34.3%増)となりました。

③その他

業務用ナルトとだしのもと堅調な売上を確保しているものの、業務用乾燥野菜の受注が昨夏以降なくなっていることから、売上高1百万円(前年同四半期比76.8%減)となりました。

損益面では、売上高の減少に伴って減収となったものの、生産を外部委託している事業である為、固定費負担も軽く、着実な利益をあげられることから営業利益0百万円(前年同四半期比52.8%減)となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

当第1四半期連結会計期間末における財政状態は、季節変動の大きい麦茶に関連する売掛債権と買掛債務の増加に伴い、総資産は490百万円(前連結会計年度末は440百万円)、負債は116百万円(前連結会計年度末は80百万円)となりました。純資産は374百万円(前連結会計年度末は359百万円)となり、自己資本比率は76.3%(前連結会計年度末は81.6%)となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

連結業績予想につきまして、現時点では、平成24年5月15日発表の当社「平成24年3月期決算短信[日本基準](連結)」に記載の内容から修正はございません。業績に影響を与える事象が明らかになり次第、適宜お知らせいたします。

なお上記の予想は、当社が現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、多分に不確定な要素を含んでおります。

実際の業績は今後様々な要因によって当社の見込みと異なるかもしれないことをご承知おきください。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第1四半期において、重要な子会社の異動はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

棚卸資産の評価方法

当四半期連結会計期間末における棚卸高の算出に関して、実地棚卸を省略し前連結会計年度に係る実地棚卸高を基礎として合理的な方法により算定する方法および棚卸資産の簿価切下げに関して収益性の低下が明らかなものについてのみ正味売却価額を見積り、簿価切下げを行う方法によっております。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

減価償却方法の変更

当社は、法人税法の改正に伴い、当第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これによる損益に与える影響はありません。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位: 千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	105,000	92,237
受取手形及び売掛金	101,480	162,211
商品及び製品	45,333	43,292
原材料及び貯蔵品	17,761	22,504
その他	3,040	3,561
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	272,617	323,806
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	60,147	59,091
機械装置及び運搬具(純額)	14,074	13,759
土地	47,780	47,780
リース資産(純額)	1,426	1,069
建設仮勘定	—	1,940
その他(純額)	2,196	2,146
有形固定資産合計	125,625	125,788
無形固定資産		
リース資産	5,161	3,871
その他	14,619	15,268
無形固定資産合計	19,780	19,139
投資その他の資産		
投資有価証券	15,657	15,270
その他	6,595	6,568
投資その他の資産合計	22,253	21,838
固定資産合計	167,659	166,766
資産合計	440,276	490,573

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成24年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	39,965	67,514
リース債務	6,917	5,188
未払法人税等	2,671	2,743
賞与引当金	2,155	897
未払金	19,577	29,296
その他	8,136	9,408
流動負債合計	79,424	115,048
固定負債		
繰延税金負債	1,410	1,272
固定負債合計	1,410	1,272
負債合計	80,835	116,321
純資産の部		
株主資本		
資本金	462,750	300,000
資本剰余金	328,450	53,293
利益剰余金	△416,012	34,136
自己株式	△782	△782
株主資本合計	374,404	386,647
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,548	2,298
為替換算調整勘定	△17,511	△14,694
その他の包括利益累計額合計	△14,963	△12,396
純資産合計	359,441	374,251
負債純資産合計	440,276	490,573

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
売上高	158,197	199,213
売上原価	91,227	113,247
売上総利益	66,969	85,966
販売費及び一般管理費	61,056	70,364
営業利益	5,913	15,601
営業外収益		
受取利息	9	34
受取配当金	164	178
雑収入	413	0
営業外収益合計	587	213
営業外費用		
為替差損	639	2,075
雑損失	7	122
営業外費用合計	647	2,198
経常利益	5,854	13,617
税金等調整前四半期純利益	5,854	13,617
法人税、住民税及び事業税	145	1,374
法人税等合計	145	1,374
少数株主損益調整前四半期純利益	5,709	12,242
四半期純利益	5,709	12,242

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	5,709	12,242
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	87	△249
為替換算調整勘定	1,067	2,816
その他の包括利益合計	1,155	2,567
四半期包括利益	6,864	14,809
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,864	14,809
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

4. 補足情報

事業等のリスク

当第1四半期累計期間において、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更があった事項は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

当社グループは、前々連結会計年度まで6期連続して営業損失、経常損失及び当期純損失を計上していることから、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しておりました。

当社グループは、当該状況を解消すべく、不採算事業・工場・子会社の廃止・統廃合、不動産売却、有利子負債の完済、組織簡素化、人件費等経費の圧縮等を行う一方、営業力・商品開発力の強化を実施し、事業体質の改善を図ってまいりました。また平成22年6月に株式会社神戸物産と資本提携及び業務提携を締結し、安定的な販路が確保されたほか、第三者割当増資により財政状態が改善いたしました。その結果、前連結会計年度において、営業利益5百万円、経常利益7百万円、当期純利益5百万円を計上いたしました。

また、当第1四半期累計期間においても、ビーフジャーキーが堅調に伸長を続けているほか、商品開発力強化の成果であるごぼう茶が大幅に伸長し、当社の新たな主力商品として定着しつつあることから、赤字体質から脱して着実に黒字を計上できる体制が構築できたものと考えております。

以上により当社グループは、継続企業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象又は状況は解消されたと判断しております。

なお、当第1四半期累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。